

越前陶芸村の“今”を伝える。



2017.08 イベントスケジュール

7/1(土) - 8/27(日)

観覧
無料

泰陶房 服部泰美作品展

美しい「緑釉」が印象に残る服部泰美氏の作品。日常使いのものから花器など、普段の生活スタイルのアクセントになる作品の数々を展示。



越前陶芸村文化交流会館 ロビー
(0778) 32-3200

7/22日(土) - 8/31日(木)

個数
限定

越前焼で風鈴を作ろう!!

夏休みの宿題にもぴったり! 素敵な越前焼の風鈴を作ってみませんか? 風鈴に特殊なマーカで絵付けをして組み立てよう! ※30個限定。



福井県陶芸館 陶芸教室
日時 7月22日(土) ~ 9:00~15:00
※風鈴がなくなり次第終了します。
料金 1個800円
福井県陶芸館 (0778) 32-2174

8/1(火) - 31(木)

shop

福井の人気おみやげ × 越前焼

ふるさと福井で愛されるお土産と、越前焼の器たちをコラボさせた福井愛溢れるコーナーを特設。帰省みやげに一味違う贈り物はいかがですか?



越前焼工業協同組合/越前焼の館
(0778) 32-2199

8/11(金) - 13(日)

挑戦!

越前陶芸村 夏休みクイズラリー

完走したらガラボンができる! 景品はお楽しみ♪
受付: 越前陶芸村文化交流会館前テント

8/11(金) - 20(日)

抹茶

ふるさとの銘菓をたのしみましょう

県内各地のお菓子をご提供。
夏の思い出に懐かしい味を♪



福井県陶芸館 茶苑
日時 8/11(日) ~ 20(日)
料金 500円 (お抹茶かほうじ茶付)
福井県陶芸館 茶苑 (0778) 32-2174

8/20(日)

予約
体験

陶と「着たらしいね!! 自分で浴衣」と花

浴衣の着付けをマスターして、
気軽におでかけしてみよう!
分かるまで丁寧に指導してもら
えるから安心。



越前陶芸村文化交流会館ロビー
日時 8/20(日) 13:30~
料金 500円

※ご自身の浴衣・腰紐・帯板・下駄など、着付け
に必要なものはご持参ください。(着物以外の小
物をお持ちでない方はご相談ください)

越前陶芸村文化交流会館 (0778) 32-3200

8/26(土)

映画
上映

映画「シュガー・ブルース」上映会



だいこん舎「洗心亭」
日時 8/26(土) 2回上映
12:00~13:30
14:30~16:00
(受付は30分前~)
料金 前売り 2,000円
(8/24までに事前振込)
当日券 2,500円
定員 各回50名
だいこん舎 (0778) 32-3735

開催中

三回忌追悼特別展

平成29年度夏期特別展

木村盛和

7/29(土) - 9/18(月・祝)

— 鉱物と結晶の世界 —

木村盛和は大正10年、京都市に生まれました。
京都市第二工業学校陶磁器科を卒業、京都国立陶磁
器試験場にて職員として働きながら作陶と釉薬研
究を開始し、昭和37年にはブラハ国際陶芸展にて
佳作賞、昭和39年には日本伝統工芸展にて優秀賞
(NHK会長賞)を受賞しました。

福井県には昭和51年に移住し、越前町佐々生に
小倉見窯を構えます。「民間の試験場のよう」と評さ
れた工房にて、日本各地、または世界中から掘り出
された鉱石をはじめとする原料を使い作陶に励む
とともに、福井県の工芸を憂慮し、工芸懇話会を結
成するなど後継者育成にも努めました。平成12年
からは福井県陶芸館の名誉館長も勤めています。

今回、福井県陶芸館では生涯現役を貫き、90歳
を超えてなお自己の作品の進化を目指した木村盛
和の作品を展示し、その鉱物と結晶の世界を幅広く
紹介いたします。



螢光石釉窯変結晶耳付扁壺
平成20年頃
福井県陶芸館



鉄銅釉窯変大皿
平成7年
郷土の作家たち展
福井県立美術館) 出品作
福井県陶芸館

7/29(土) - 9/18(月・祝)

三回忌追悼特別展

木村盛和 — 鉱物と結晶の世界 —

福井県陶芸館 資料館
料金 一般300円・高校生以下無料
(団体30名以上は2割引)
福井県陶芸館 (0778) 32-2174

【関連企画】

■タッチ & トーク 無料

日時 8/13(日) 14:00~
会場 福井県陶芸館 茶苑 大広間
定員 20名

■ギャラリートーク 無料

日時 9/3(日) 13:30~
会場 企画展示室



福井県陶芸館 月替個展 スケジュール

8月 脇谷窯 西浦武・中沢洋子 作陶展

9月 宇野陶房 宇野直・ふみ 作陶展

月替個展は、資料館一階ロビーで月替で開催する越前焼の現代作家による個展
会場/福井県陶芸館 1階ロビー 福井県陶芸館 (0778) 32-2174

ふりかえる

平成29年度春期特別展

梅藤哲朗 陶彫

【開期】平成29年4月8日(土) ~ 5月29日(月)

開催の挨拶

かくしゃく

「矍鑠たるかな、この翁」

平成29年度春期特別展「梅藤哲朗 陶彫」展を開
催します。陶彫家の梅藤哲朗さんは、越前焼陶芸家
の中で異彩を放つ存在です。御年85歳。エネルギー
シユな作陶は衰えを見せず、去年は後半だけで50点
にも及ぶ陶彫作品を制作されました。今回の特別展
はこの新作を中心に展示いたします。

梅藤さんは木彫の抽象彫刻家として、20代半ばで
中央彫刻界の高い評価を得、その後40歳で陶芸に転
身され、陶彫作家・陶芸家となられた方です。作品
は具象と抽象、精緻な写実と大胆なデフォルメが渾
然一体となっています。その卓抜した造形力は天賦
の才とともに、彫刻家としての若き日の修練が与か
って培われたものであろうと想像します。

皮肉溢れるユーモア、作品と作者が放つエネルギ
ー、そして哀感。一見したところでは、人間と現代
社会への不信が創作の源泉と見えますが、実は根底
に脈打つ人間愛の反転でありましょう。

この文章の表題は、昨春初めて梅藤さんにお会い
した折、私の脳裏に思い浮かんだ言葉です。後漢の
光武帝が、中国の辺境で討伐と守備に歴戦した老将
軍馬援に発したもので、戦陣において生を全うせん
と更なる従軍を志願する馬援への賛嘆の言と記憶し
ます。甲羅を経てなお一事に「生き抜かん」とする
姿に、梅藤さんと相通うものを感じました。

観覧者の皆様、哄笑もお連れの方との賑やかな談
笑も結構です。伸び伸びと楽しく鑑賞して、作品と
作者とから元気ももらってください。

平成29年4月8日

福井県陶芸館館長 網谷 克彦

